

情報告知欄

トウさんのQ&A

TDA副代表理事 高橋 徹

■Q&A—「低炭素化社会とまちづくり」

Q 低炭素社会とは？



京都議定書で2008年から2012年の間に温室効果ガスの排出量を1990年比マイナス6%にすると決めたこともあり、これからは温室効果ガスを継続的に削減する社会、即ち低炭素化社会に向かわなければなりません。生活に必要なサービスは発展させながら、しかし、炭素系エネルギーはできるだけ使わないという社会です。

Q どのようにしてCO₂削減を達成するのでしょうか？

電力・熱では、出来るだけ石油や天然ガスなどから再生可能なエネルギーへの転換を図ります。現在、各自治体等でCO₂削減の目標を設けていますが、実際には各家庭や企業の協力が必要です。家庭では、省エネ、高断熱住宅、高効率機器、太陽光利用などが考えられます。業務部門では、例えばオフィスでの対策として設備システムの高効率化、新エネルギー装備など個別にやる努力に加えて、地域冷暖房や地域全体でエネルギー融通を行う取組等が必要です。交通も、ガソリンから電気自動車や燃料電池自動車などにシフトしていきます。

Q 低炭素化社会の目指すものは？

低炭素化社会は持続可能な社会の入り口で、住みやすく、安全で安心なまちづくりが本当に大事なことです。現代の技術を生かして、人間の知恵とデザインで、快適・安全で、コンパクトで効率的なシステムを持ち、かつ、自然と共生した社会を目指します。

TDAコミュニティ

このほど新たにTDAの事務所ができました。千駄ヶ谷駅から徒歩5分ほどの所です。お近くにおいでの際はお気軽にお寄り下さい。なお、事務所新設に伴いFaxも使用できるようになりましたので、ぜひご活用下さい。



【新事務所】

●住所：東京都渋谷区千駄ヶ谷3-28-8-302

●Fax：03-6459-2221

編集後記

2008年10月31日に無事に第3期定期総会が無事に終了し、TDAも第3期に突入しました。第3期からは運営組織も「運営委員会」、「事業委員会」を中心とした組織に一新され、より積極的な活動を行うつもりです。

第3期の活動としては、「まちなみスケッチ塾」、「景観講座」を継続して開催するとともに、新規に「景観まち歩き調査」、「パネルディスカッション方式のセミナー」、「まちづくり・ものづくり視察会」等、会員、賛助会員の皆様とともに新たな展開も計画しています。TDAのこれからはご期待下さい。

「景観文化」では、会員の皆様のお待ちしております。『景観ビジネス最前線』は各企業の方が読者へ企業イメージをアピールするコーナーです（有料・賛助会員企業優先）。掲載ご希望の方は広報担当までご連絡をお願いします。また、『海外ランドスケープ事情』の記事を募集しています。会員の皆様の海外視察等の経験をお聞かせ下さい。

この『景観文化』の編集は、第3号から担当が代わりました。前任者に負けないよう頑張りますのでよろしくお願いたします。

(広報担当：栗原) [デザイン：(株)アーバンプランニングネットワーク] 2008120600

景観ビジネス最前線

都市の顔は進化する。



住軽日軽エンジニアリングは新しい都市空間の創造に貢献しています。

株式会社 住軽日軽エンジニアリング

本社 〒136-0071 東京都江東区亀戸2-35-13 新永ビル TEL.03-5628-8519
北海道支店 TEL.011-261-4111 大阪支店 TEL.06-6223-3561
東北支店 TEL.022-292-7011 九州支店 TEL.092-436-6910
新潟支店 TEL.025-283-6695 沖縄支店 TEL.098-863-3723
静岡支店 TEL.054-273-8851 山梨営業所 TEL.055-232-1598
名古屋支店 TEL.052-209-6901 広島営業所 TEL.082-297-5455
北陸支店 TEL.076-222-3299 http://www.sne.co.jp

写真：JR岐阜駅前デッキ歩廊シェルター

TDAニューズレター

3号 Vol.3-冬

景観文化

2008-12-01

TDA JAPAN



インフォーラム

このスケッチは千葉市の「幕張ベイトウン」を、北西側に広がる幕張海浜公園からアクセスする歩行者デッキの上から描いたものです。

幕張ベイトウンは京葉線の海浜幕張駅の南東方向海側に広がる約85ヘクタールほどの中高層住宅地で、20数年前に計画が始まりました。

この計画のコンセプトは、①住宅に純化された団地ではなく商業やオフィスが混在する「複合性」のある街をつくる、②従来の団地のように隔離された孤島をつくるのではなく一般市街地に連続する「開放性」のある街をつくる、③どこにでもある街ではなくここにしかない「場所性」をもつ街をつくる、となっています。

この住宅地の特徴は「沿道型」あるいは「街区型」といって、ヨーロッパの街並みのように街路に面して口の字形に建物が建ち、その内側にパティオとよばれる中庭があります。

各中層街区の面積は5~6,000㎡、高層街区は数ヘクタールとなっており、戸数密度は200~300戸/haです。その大半は分譲マンションで、賃貸は約1/10です。現在では2万3千人が住んでいます。

この計画当初から、当NPOの曾根代表理事をはじめ多くのメンバーが関係しています。私も、かつてひとつの街区の基本計画に参画し、その後もある公園の設計に関与しました。

まちなみスケッチ塾長/八木健一

VOL3-目次

- 表紙 インフォーラム(絵・文)/八木健一
- 見開き TDA テーマリリース TDA 連続「景観講座」~曾根幸一による「建築とまちづくりの基礎」~レポート/横川・白石
- 見開き 海外ランドスケープ事情/曾根幸一「アメリカ大陸横断」
- 裏表紙 情報告知板/高橋徹 トウさんのQ&A「低炭素化社会とまちづくり」
- 裏表紙 TDA コミュニティ/編集班
- 裏表紙 景観ビジネス最前線(住軽日軽エンジニアリング)

TDA連続「景観講座」
～曾根幸一による「建築とまちづくりの基礎」～レポート

都市景観、建築とまちなみ、都市再生・開発にかかわる第一人者が講師を務めていくTDAの景観講座。春に始まった講座は、月一回で開催されている。第一弾（4～6月）は土田旭氏が担当し、盛況であった。それに続き、第二弾は7月～9月にわたって、TDA理事長の曾根幸一氏による講座が開かれた。毎回、会場の席が埋まるほどの聴講者が集まった。

土田氏の講演が、広く景観をとらえていたのに対して、曾根氏はテーマを絞っての話になった。3回の講座を通しての大きなテーマは「街のシルエット、街区の関係」である。その講座内容の概要を以下に紹介する。



1) 7月17日

「街の基盤とシルエット」

『空から見た街』と題して、都市建築とその基盤になる街区との関係を俯瞰的にとらえてのテーマである。中世～近代において街のシルエットが構成されていく系譜を示し、多くの諸外国について事例を紹介した。また、江戸時代からの日本の都市建築の変化を紹介し、外国の事例と比較しながら日本の近代都市空間システムについて論じた。

2) 8月28日

「景観形成のエレメント」

1回目の視点が俯瞰的であったのに対して、2回目は手に触れる距離の街に視線を向けての講座であった。曾根氏は「景観の形成は建築物の表層であり道路に散在する諸要素が重要である。」と、述べている。近代の都市計画は機能と空間を整序してきた。しかし、そこからあふれ落ちる豊饒さがあった。その救済策、美学について触れている。その一部を抜粋すると、路

地について独自の言葉で「浸透性・曖昧性・逸脱性・迷路性」と表し、都市計画では描ききれない都市の魅力を論じている。



3) 9月18日

「ガイドラインとその調整」

2005年の景観法策定以来、景観行政団体が増加し、景観への関心が高まってきた。しかし、ガイドラインには抽象的な美観を述べたものが多い。そこで、曾根氏が約20年携わっている「幕張ベイタウン」について詳細に紹介された。ベイタウンは「複合性・開放性・場所性」を街づくりのテーマとしている。事業者と調整者が協力する推進体制で、「事業計画」と「都市デザイン」にガイドライン（＝デザインコード）が作成された。全体の流れの中で反省点をあげながらも、多くの

論文や研究のテーマとなる地域になっている。

各講義とも、さまざまな国の事例や人物が紹介され、曾根氏の見識の幅広さが伺えた。景観デザインの第一人者として活躍している曾根氏が、どのような本を読み、どのような時代背景でどのようなものに興味を持ってきたのか。これから景観に携わっていきたい者、景観に関わる仕事をしている者にとっては、一言も聞き逃さない貴重な講演であった。

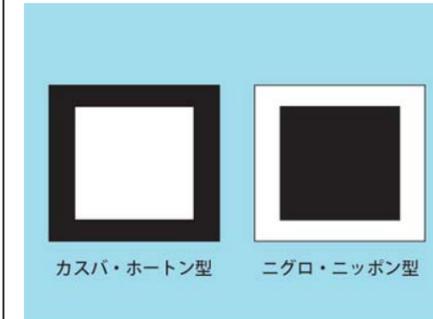
毎回、講義の後半で繰り広げられる曾根氏と公聴者との質疑応答は、皆熱意があふれんばかりの勢いで、圧倒された。「景観」が、まだ世間一般には浸透していないという声も聞こえる昨今だが、この勢いを肌で感じ、自ら動き出す人が出てくれば、世の中良い方向に向かうのではないかと感じてしまう。

現在、第三弾として高橋徹氏の講座「都市開発インディゲーター分析」が始まっている。10月16日に第一回を終えたが、日本の都市制度について、より実務的な内容であった。これから2回の講座が楽しみである。

(横川・白石)

● 講座を終えて

私の講座は市街地の環境である。企画委員の指示に従ったつもりだが、「街区と建築」、「路地と景観デザイン」、それに20年も続けている「幕張ベイタウンとガイドライン」といった内容になった。1回目（第4回）は曖昧な敷地割りで建設せざるをえない市街地建築のシルエットが景観を



乱していることや、その背景にある制度にも少し触れてみた。街区の隅ぎりの奇妙な慣習については、この講座が発端で論文を書き始めた人がいるらしい。2回目は路地の話を発端にして近代建築以降の都市デザイン論を紹介したつもりである。空疎になりがちな都市をよりコンパクトにとらえ、いかに賑わいをとり戻すかが主題である。3回目の幕張ベイタウンは、すでに何度目かの繰り返しになったが、これを機にこの街をみてみようという人



も現れた。大学の講義ならペーパーだけで90分は慣れているが、映像がないと多くの方々には理解がしにくくなる。そこでパワーポイントを習得して格闘。グーグルにはおおいにお世話になったが、各講義とも60枚以上の資料を編集した。この間曖昧であった私の勉強もすこしはできたように思う。後半はなじみの専門家も参加頂いたが議論が難しくなってしまったのは一般向けの講座としてはやや反省すべき点かもしれない。

(TDA代表理事 曾根 幸一)



海外 ランドスケープ事情

アメリカ大陸横断

景観法は市街地だけでなく広く国土の景観を対象にしているから、わが国のように狭く狭い地形であれば山河や海の景観が馴染みになっている。だから、何も無い空間の体験もしてみたいものだ。息子達二人が西と東に住んでいるという全くの個人的な理由から、アメリカ大陸を横断してみようということになった。

ロス、フェニックス、アルバカーキ、サンタフェ、オクラホマ、セントルイス、シカゴ、デトロイトで6泊7日だったと思う。言うところの「ルート66」の旅である。60年代にこのルートを整備することによってドライブ・インのような産業が生まれたという。走行距離3,500kmくらいだから今の若い人だと2泊3日で走破するそうだ。それにしても西側の半分以上は広大な土漠の原野が広がっている。ジョン・ウエインが出てきそうな西



土漠の原野



アルバカーキの原初の家



タリアセン・ウエスト

部劇の世界だ。

アルバカーキはアメリカ原住民の家型を遺産にして街おこしをしている。この間F・L・ライトのタリアセン・ウエストを拝見。

オクラホマのプライスタワーの方は今ホテルになっていて一泊させてもらった。この大陸はセントルイス迄来ると風景が違って来る。緑が俄然多くなり湿り気がますのだ。コースは逆をたどったがミシシッピ川沿いのアーチが西への入り口を意味することが解ってくる。

シカゴは何度目かだが公園にはF・O・ゲーリーの野外劇場が出来ていた。すぐ脇のアニッシュ・カプーアの作品もすばらしい。

(TDA代表理事 曾根 幸一)



プライスタワー



セントルイスのアーチ



F・O・ゲーリーの野外劇場



アニッシュ・カプーアの作品